

南相馬市授業改善プランⅠ

改善イメージ図

南相馬市教育委員会

目標

基礎・基本の定着と活用力の向上
～全国トップクラスの学力を目指して～

Plan

平成29年度に向けたプランの見直し

Action

各校の「授業改善の重点」に基づく授業の実施

Check

全国学力・学習状況調査
自校採点結果の分析と活用
課題の早期把握、早期対策

Do

2・3月

市学習に関するアンケートの実施

1月

市標準学力検査の実施

11月

福島県学力調査の実施

10月

全国学力・学習状況調査を受けた再確認

8月～

市研修支援の活用

- ・スーパーティーチャー招へい事業
- ・活用力向上授業研究会
- ・先進地視察研修 等

7月

先進地事例の研究

(学習指導改善検討委員会)

市学習に関するアンケートの実施

6月

各校の「授業改善の重点」の作成
学習指導改善検討委員会の実施、改善策の検討

5月

各小・中学校における全国
学力調査の自校採点

4月

平成28年度全国学力・
学習状況調査の実施

各校における「九つの課題」

改善に向けた取り組み



学力向上に向けた「9つの課題」

発表する場の設定、学び合う授業づくり、資料を読みとる力の育成、
根拠を明確にして書く力の育成、ノートづくりの工夫、板書の工夫、
適用とまとめの時間の確保、家庭学習の習慣化、読書活動の推進

Q.1 学力向上に向けた課題は何ですか？

A. 南相馬市教育委員会では、市内小・中学校の平成26年度の全国学力・学習状況調査（質問紙調査）の結果と、学力トップクラスの自治体との比較を通して課題がみられる次の9つを「全小・中学校で取り組みたい9つの課題」として設定しました。

- 活発な発言を促すため、発表する場の意図的な設定
- 話し合い・学び合いを通じ、児童生徒相互に啓発するような授業の設定
- 目的に応じて資料を読み取り、話したり、書いたりする学習活動の指導
- 根拠を明確にして書く学習活動の重点的指導
- ノート指導の工夫
- 板書が果たす役割の重視と工夫
- 適用とまとめの時間の確保
- 計画的な家庭学習の習慣化
- 読書活動の推進

これらの課題に対して各小・中学校の実態に合わせて焦点化・具体化を図り、全校を挙げて全教員で取り組みます。

全学年・全教科・全教員…
みんなで関わって、授業改善を進めましょう。

今こそ、ALL 南相馬の教師力で！



Q.2 どのようなスケジュールで取り組みますか？

A. 5年計画で授業改善に取り組みます。はじめの3年間では各種研修を通して活用力を高める授業等の共通理解を図り、次の2年では研修を通して実践力の強化を図ります。

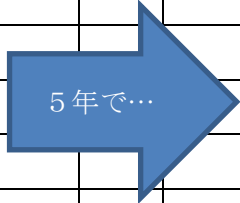
H. 27~29年度（3年間）INPUT 期間
先進地視察研修・スーパーティーチャー招へい事業
・学習指導改善検討委員会等 研修の強化

H. 30~31年度（2年間）OUTPUT 期間
活用力向上授業研究会・指導員による
モデル授業等による実践力の強化

また、「9つの課題」の改善には5年間を通じて継続的に取り組みます。

平成27年度全国学力・学習状況調査・質問紙調査より「9つの課題」に関する項目より「そう思う」の割合を比較

	27年度		28	29	30	31年度
	小	中				
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	△	△				◎
授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	△	△				◎
授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	△	○				◎
授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	○	○				◎
授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	△	○				◎
授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	△	○				◎
授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	△	○				◎
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	△	○				◎
読書は好きですか	△	○				◎



9つの課題を、
「強み」に変える！



- ◎全国平均正答率を上回る（+5%を超える）
- おおむね全国平均である（±5%以内）
- △全国平均正答率を下回る（-5%を超える）

Q.3 授業はどう変わりますか？

A. 授業の中に **考える・話す・書く** 活動を多く取り入れることで、子どもたちが主役の

授業に変わります。こうした授業を通して子どもたちの**思考力・判断力・**

表現力 を育てます。また、教えることはきっちりと教える授業、電子黒板等の

I C T機器を使った分かりやすい授業を行います。



Q.4 市ではどのような研修支援を行っていますか？

A. 各小・中学校で取り組んでいる校内研修を支援するために、市では次のような事業を行っています。

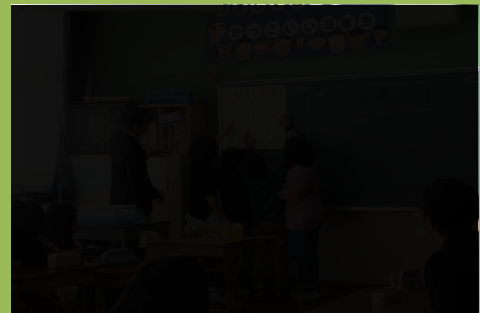
スーパーティーチャー招へい事業

高い指導力を有する教員（スーパーティーチャー）等を小中学校に招へいし、授業公開や授業カウンセリング等を開催して教職員の指導力向上に取り組んでいます。



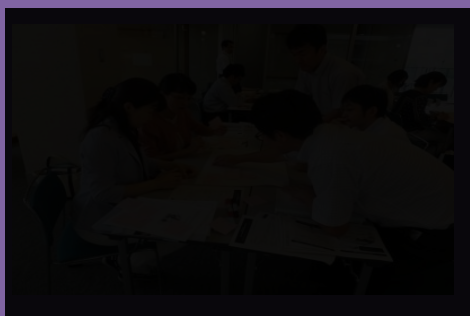
先進地視察研修

学力向上の先進地である秋田県をはじめ、各先進校や研究校を視察し優れた指導のノウハウを学び、各学校の学力向上策に活かしています。



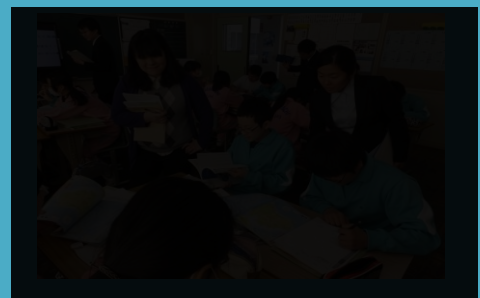
学習指導改善検討委員会

各小・中学校で学力向上の中心となっている先生を集め、学力向上に向けた具体策について検討を重ねています。南相馬市全体で取り組みたいことについてまとめ、各学校に発信します。



活用力向上授業研究会

小・中学校の指定校で、活用力の向上や9つの課題の改善に向けた研究会を行っています。授業研究会をはじめ、事前検討会やワークショップ型の事後研究会を通して、学力向上の具体的・効果的な取り組み方について議論します。



Q.5 各学校の取り組みのポイントは？

A. 次の3点を意識し、市の研修支援を活用しながら校内研修を活性化することがポイントです。

選択と集中

- ・全国学力・学習状況調査の自校採点結果の分析と活用
- ・市学習に関するアンケート分析
- ・各校における「授業改善の重点」作成

イメージの共有化

- ・スーパーティーチャー招へい事業への参加
- ・先進地視察研修で得られた成果の共有化
- ・活用力向上授業研究会への参加

授業研究会の活性化

- ・事前検討会の実施
- ・事後研究会の充実
(秋田式・ワークショップ型授業研究協議会の実施)

Q.6 改善に向けてどう検証を行いますか？

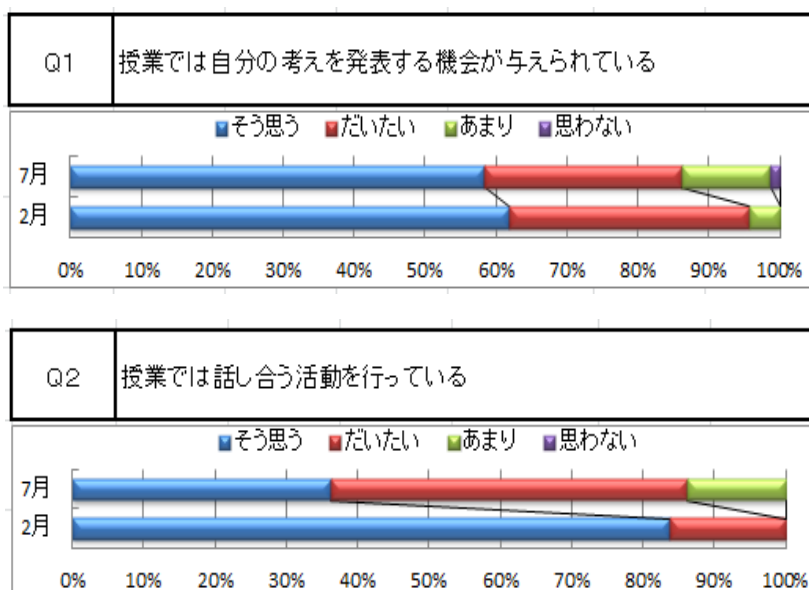
A. 「市学習に関するアンケート」を活用して、学習指導改善の検証を行います。

「市学習に関するアンケート」について

各小中学校の小学5年生と中学2年生を対象に、市の「9つの課題」にもとづいた項目でアンケート調査を行っています。7月と2月に調査を行い、結果を比較することで学習指導改善による変容を検証します。

この調査結果をもとに、各学校において「改善の方策が目的を達成しつつあるかどうか」や、「どのような点で修正が必要か」等を把握していきます。

例：平成27年度 市内A小学校5年生回答より（7月と2月の比較）



授業が変われば
子どもが変わる！

左のA校のグラフのように、
着々と成果を積み重ねていきましょう！

